

©ROPPONGI WASHING POTATOES TIMES



©ROPPONGI IMOARAZAKA SHINBUN



イモアラ

http://www.roppongiartnight.com

六本木 芋洗い坂新聞

2014年
(平成26年)

3/31
(月)

MONDAY

発行所 水産経済新聞社 〒106-0032 東京都港区六本木6丁目8番19号 電話03-3404-6531(代) FAX 03-3404-0863



アーティスティックディレクター日比野克彦の「動け、カラダ!」の掛け声とともに集合したスタッフ陣。

Special

春爛漫! 今年も『六本木アートナイト』の 季節がやって来た!!

2014年4月19日(土)~20日(日)開催

『六本木アートナイト2014』の楽しみかた

街全体が一夜限りの美術館に変貌する『六本木アートナイト』。2014(平成26)年4月19日(土)~20日(日)の開催までついにカウントダウンが始まった。普段とは違い、深夜や朝まで展覧会を見ることができたり、レストランやカフェでは楽しい仕掛けやメニューが味わえ、六本木をまるごと体感できる夜になる。

「六本木アートナイト」に限らず、大型アートフェスティバルを「めいっばい楽しみたい」、「出来るだけ多くの企画に参加したい」という方は、ガイドブックや公式ホームページ(下記のアドレスを参照)をチェックし、特定の時間にしか行われないイベントやパフォーマンスを見逃さないように計画するのがオススメ。特に今年は、「六本木パレード」や屋外でのパフォーマンス、来日アーティストによるフードプログラムなどが行われるので、計画すればするほど楽しみのチャンスが増える。また一方で、予備知識なくふらっと六本木にやって来て、街中をグルグル巡る「出会い頭なスタイルも楽しみたい」のひとつ。この夜の六本木は各地で様々なプロジェクトが行われているので、どんな形の参加でも満喫できるのだ。また、日曜日の昼だけ行う体験型プログラムもあり、名称は「アートナイト」だが昼も盛りだくさん。さらに六本木商店街振興組合による一夜限りのフードコートも登場するので食の面も充実。新しいアートや人との出会い、多くの発見がある2日間になるはずだ。

<http://www.roppongiartnight.com>

全ての領域には「アート」が存在している。

HIBINOTSUBUYAKI

第3回

ヒビノ
ツブヤキ

「アート」は全ての領域に通じている。建築や自然の視覚的な事象はもとより、教育、福祉、医療の人間に関わる事柄にも、そして科学、数学などの理論の世界に於いても「アート」は存在している。

社会は「あったらいいな」「なりたくない」「知りたくない」という個人の気持ちの源になり、人から人へと受け継がれながら、欲する力が創ってきた。かたやもう一方「なくなったらいいな」「知りたくない」という力も世の中を創りだす源になってきた。欲望を否定する欲望もまた欲望である。全ての人の欲望が同じ方向を向くことはあり得ない。たとえ「見同じ方向に見えていても、欲望の内容を精査するとその方向は少しズレている。「大体同じだから同じいいね」という場合もあれば、「そのズレ故に決定的に同じではない」となる場合もある。どうしてこうなるのか?それは個人個人の価値観が違うから。人の数だけの価値観があるから。「ほしい」の源には個人差があるから。この個々が集まっているのが社会であり、各領域でもある。しかし何故、異なる個々が集まること出来るのか?それはそこには、その差異を感じ取ることが出来る能力である「アート」が機能しているから。だから全ての領域には「アート」が存在している。一枚の絵を「アート」と呼ぶのではない、異なった色を生かして一枚の絵にしていけることが「アート」なのだ。

日比野克彦

「六本木バレット」について語るプログラムディレクターの森真理子氏(手前)と森ビル井上紗彩氏。映像はアーティスト・吉田一郎氏による衣裳のラフスケッチ。頭に光る人型をつけるアイデア。



School #03

公開スクール第3弾！ いよいよ本番目前！ 今年はどうなる？ どう楽しむ？

アートナイトを
楽しくする作り手たち
の生みの苦しみ

前回、前々回に続き、三六
本木アートナイト2011

4「開催までの月に1度
制作プロセスや舞台裏を
公開してきた六本木ア
ートナイトスクール。1ヶ
月後の開催を前に、スク
ール最後の回となる第3回

が3月19日、国立新美術
館の講堂で行われた。今
回は「今年のアートナイ
トの楽しみかた」という
お題のもとに、アートナ
イトのメインテーマ『動
け、カラダ!』に基づいて、
実際に広域プログラムと
してどのようなアर्टネ
ィストの作品が展示され
るのか、各館でのプログラ
ムの詳細や見どころなど
も発表された。

冒頭に、アर्टネィス
ティックディレクターの
日比野克彦氏。「今回の裏
テーマは『アートナイト
を楽しんでもらうための
苦労』。あの計画が実際は
こう着地したのか、とい
う努力や苦しみも部分も
分かってもらいたいと思
う。ドタバタの舞台裏を
見て、みんなの中に『あ
んばれ!』という一体感
が生まれてくればいいか
な』と思います。

各館独自のユニークな 企画も次々と発表

まず、登壇したのは、
森ビルの谷川浩太郎氏と
アートプランナーの白井
ちか氏。西尾美也氏が約
2000枚もの古着を
使って作るパッチワーク
作品のプロジェクト『カ
ラダひとプロジェクト』
について、「予想を上回る
2800枚という古着が
集まったのは嬉しいこと。
を入場無料とする。また

先日、六本木ヒルズアリー
ナでスカート作品の吊り
実験を行いました。
この「人間の家(スカ
ート)」という約4m×9m
×12枚の巨大作品の他、
ミッドタウンで花柄の布
を使った作品、国立新美
術館でボタンを雨に見立
てた作品を展示する予定
だ。現状の苦労点に関し
て谷川氏は「果たして間
に合うのか、ということ
」という。「西尾さんは
六本木内で作業をしてい
ますが、そろそろヤバク
なってきた、と。焦ると
関西弁全開になってきて
います(笑)」。スカート
の作品は現在、12枚中6
枚が完成しているが、こ
の6枚で約1ヶ月の制作
期間がかかったそうです。
花柄の作品はこれから
という状況、ボタンの作
品が半分くらいという進
捗。ギリギリな状況の中、
会場の観客に制作への参
加を呼びかけるヘルプ
メッセージも。これに日
比野氏は「考え方によっ
ては、完成しなくてもい
いかもしれない。それよ
り、完成を目指してい
くプロセスや、そうやっ
て過ごした時間の方が大
切だと思う。とはいえ
が、はってっくたい!」

『街なかウォーク』も 見逃すな!

『六本木アートナイト2014』の楽しみのひとつは、街を散策して出会うアート作品やパフォーマンス。総称して『街なかウォーク』と呼ばれている作品群だ。例えば国立新美術館の隣、政策研究大学院大学内では篠田太郎による『月面反射通信技術』の特別展示、東京ミッドタウンのオープンスペースでは八谷和彦やリー・ウエンの作品が公開され、六本木ヒルズノースタワー前ではコンタクトゴンゾによる『黒い家』がお目見えする。また、ファッションビル・ピラミデでは東野祥子、三河台公園では岩淵貞太やhyslom(ヒスロム)のパフォーマンスが行われる。その他、開催直前までアーティストやプランナーたちが新たな楽しい企画を考え続けているのでどうぞ期待!

<http://www.roppongiartnight.com/>

篠田太郎『月面反射通信技術』

東野祥子

六本木アートナイトの打ち合わせのため、オランダから来日したばかりの
マライエ・フォーゲルサンク氏(写真右)と日比野克彦氏(左)。

六本木商店街では、フ
ラッグで街をアートナイ
ト一色に染める他、アマ
ンドの前の時計塔を吉田
一郎氏がデコレーション、
ラビロス六本木のピロ
ティにフードコートも出
現するという。

最後に「食」をテーマ
としたプログラムの制作
を担当しているマライ
エ・フォーゲルサンク氏
が、日本に到着したその
足で、スペシャルゲスト
として登場。彼女がコン
セプトとする「人に食べ
させる/食べさせられ
る」という違和感を通し
た実験的な作品が、ア
ートナイト期間中に展開さ
れる旨が伝えられた。

約1ヶ月後に迫る本番
を前に、様々なプログラ
ムが発表された第3回ス
クール。まだまだギリギ
リの本番当日まで、内容
も詳細も動き続けること
になる。今年も、ライブ
感のある一夜を体験する
ことになりそうだ。

(大池明日香)

科学の眼、視覚のふしぎ

江びのぞいて

江戸絵画

The Scientific Eye and Visual Wonders in Edo 2014 3.29 sat → 5.11 sun

(部分)『みかけハこハるがとんだい人だ』 歌川国芳 大判錦絵 弘化4年(1847)頃 町田市立博物館 【展示期間 4.23~5.11】

お問合わせ: TEL 03-3479-8600 <http://suntory.jp/SMA/>

六本木・東京ミッドタウン ガレリア3階

サントリー美術館

休館日 = 毎週火曜日 (4.29[火・祝]、5.6[火・休]は開館)
開館時間 = 10時~18時 ※最終入館は閉館30分前まで
(金・土および4.28[月]、5.5[月・祝]は20時まで開館)
*作品保護のため会期中展示替を行いません

- 4.19(土)は入館料一律500円、24:00まで開館延長!
- 六本木アートナイト2014のテーマ、「動け、カラダ!」にちなんだプログラムを特別開催!

第二回六本木夜楽會

昨年好評を博した、六本木のお店を舞台にアーティストや各界のプロフェッショナルが意見を交換する場《六本木夜楽會》を今年も開催。少人数でアーティストを囲み、食事を楽しみながら、ここでしか聞くことのできないクロストークを満喫し、ともに語ろう、貴重な夜となることでしょう。

【会場】アモンド 六本木店、アンディアーモ、いろは、キャンティ飯倉本店、サントリー美術館 Shop×cafe、セルベッサ (CERVEZA)、創作料理 薫風花麗、PRIVATE DINING 点 (TOMORU) 六本木六門店、ブラッスリー ポール・ボキューズ ミュゼ、わいわい居酒屋にんにん本舗

【出演予定アーティスト】50音順



参加者募集!!

<http://www.roppongiartnight.com/>

六本木夜楽會フードスペシャル《フィード・ラブ》

食べるという行為は、生きることに直結しています。そしてその味覚や過ごした時間の記憶はその人の人生を形づくる重要なファクターの一部です。オランダを中心に活躍するイーティングデザイナーのマリエ・フォーゲルザンク (Marije Vogelzang) が、視覚を用いずに食するという体験を通して、味覚や嗅覚を総動員し自らの記憶を掘り起こすという、斬新なフードプログラムを展開します。食を通して、自分のカラダに眠る何かを思い出してみませんか。

【特別助成】オランダ王国大使館 【協賛】西武・そごう

Marije Vogelzang マリエ・フォーゲルザンク/2000年、アントワープのデザイナーアカデミー(オランダ)を卒業。食を主題とした「デザイナー」ではなく、食の起源、空間や食べ方、その場の空気も含めた「食の体験」を作り出す。世界初の「イーティングデザイナー」である。実験的なコンセプトで彼女のデザインを体験できる「Project」というレストランを展開。さらに自身の体験をひろげ、「食べる」という動詞をデザインするという展望へと発展させ、世界各地で賞賛を浴びている。また、長期にわたる病院での療養プロジェクトや、教育や思考のワークショップなど社会プログラムも行い、「食」を通して多岐にわたる提案や問題解決のためのデザインを実践する。



★第二回六本木夜楽會、《フィード・ラブ》ともに、詳細および参加方法は、公式ホームページにてお知らせいたします。また、全てのプログラムの内容は変更になる可能性がありますので、予めご了承ください。

今年の2月に入ってから、日本女子体育大学や六本木のビルの一室などでパレードに向けた本格的な練習が行われている。



Parade

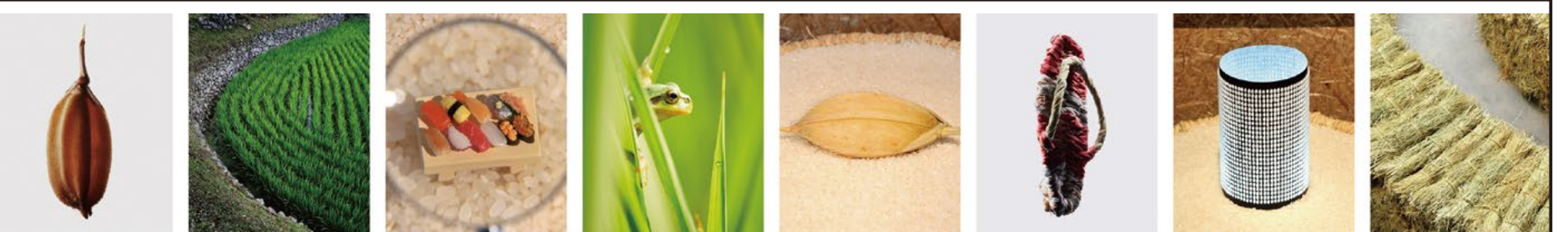
伊藤キムさんと一緒に 六本木の街を 人とモノがふわり流れる。

「ふわりしたいながれた」さんで終点の星条旗通り、いつながたい」と題し、まで行く、およそ3時間六本木の夜の街を約13のビッグパレードを行う0名にも及ぶ集団が練り歩く市民参加型のパレード。2005年の「愛・地球フォーモンス・パレード」でも前夜祭パレードの総演出を務めたことあるのですが、街場でのパフォーモンスは、舞台とはひと味もふた味も違ふ面白さがあります。良い意味で雑になるといえる、うか、キチッと用意された舞台とは違い、街で起こる様々なノイズが入ることで崩され、刺激され、

雑味をたっぷり内包して、予定不調和のエネルギーを放出する。ハプニングが起らないような手段を考えなくちゃいけないんだけど(笑)、そこからこぼれ落ちるものは必ずある。それが楽しみ。しゃかりきにならず、みんなで音に合わせて前を向いて進み、気づいたらふわりとながっていった。そんな一夜になると嬉しいですね」音楽監修を務めた作曲家の川瀬浩介さんによる「リズムと一体化したキムさんの振付けは、腕タイクン、膝カクカク、肘グリグリ」など愉快で誰でも真似できるほどシンプル。自然とカラダが動き出す仕掛けがあるように、動き自体は人間のカラダそのものにフォーカスしたもので極めてシンプル。僕は「カラダつかい体操」と呼んでいて、街中で集団ラジオ体操をするようなイメージです。カラダが連想ゲームをするように、途中からほとんどおかしな方向へ脱線したりしますが、ナレーションの言葉に合わせてカラダを動かすだけで、とにかく誰でも楽しめるようになっていきます。僕は長年ダンスに携わっている中で、一般の人が意識する以上にカラダそのものについて常に考えてきました。自分のカラダが今とモノが夜の街をふわりここに在ることを実感する不思議さや大切さ、人間本来の在り方について、そういう日常の「カラダ」に対する僕なりの思考やモノが流通する街とを、今回のパフォーモンスに込めています。都会という日常の中にカラダを放り出すことで出現する「非現実感」みたいなものを、参加者全員で体験できた嬉しいうすね」



(写真左)2005年の「愛・地球博」で数千人規模のパレードを成功させた、ダンサー・振付家の伊藤キムさん。国内外で活躍し、京都造形芸術大学客員教授として学生にダンスや「身体論」を教えている。(右)カラダ全体を解放させ、踊りの稽古に励む参加者たち。



日時:2014年4月19日(土) 20:00-22:00
場所:21_21 DESIGN SIGHT(東京ミッドタウン・ガーデン内)
司会:アストリッド・クライン/マーク・ダイサム
21_21 DESIGN SIGHT企画展「コメ展」開催中!
六本木アートナイト特別開館時間:
4月19日(土) 11:00-24:00(入場は23:30まで)



